

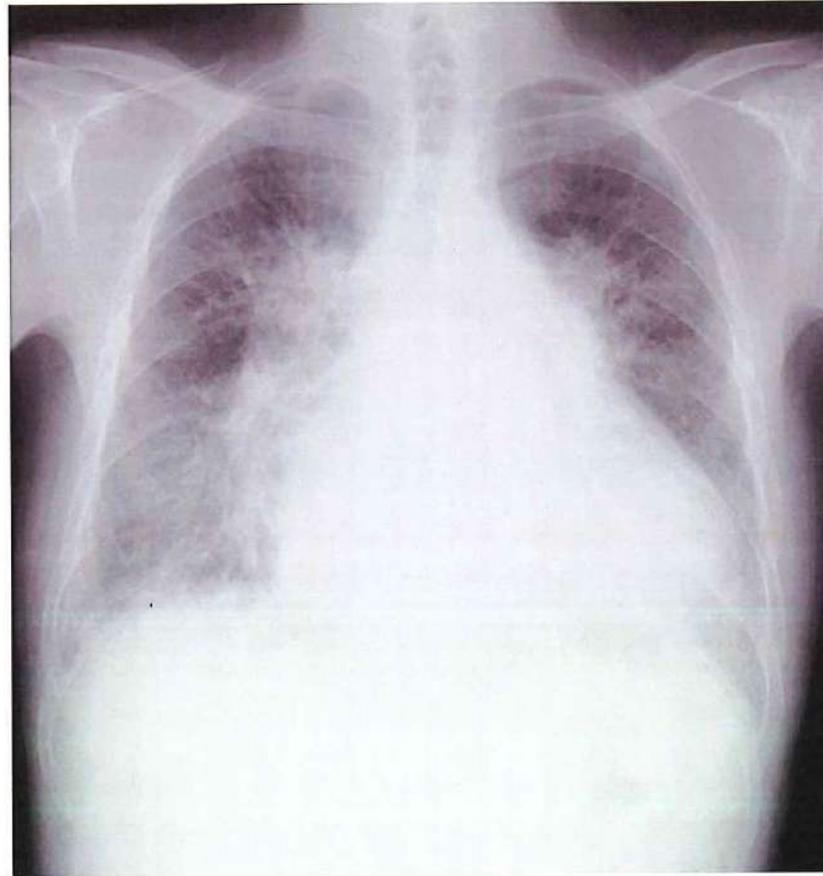
確認テスト

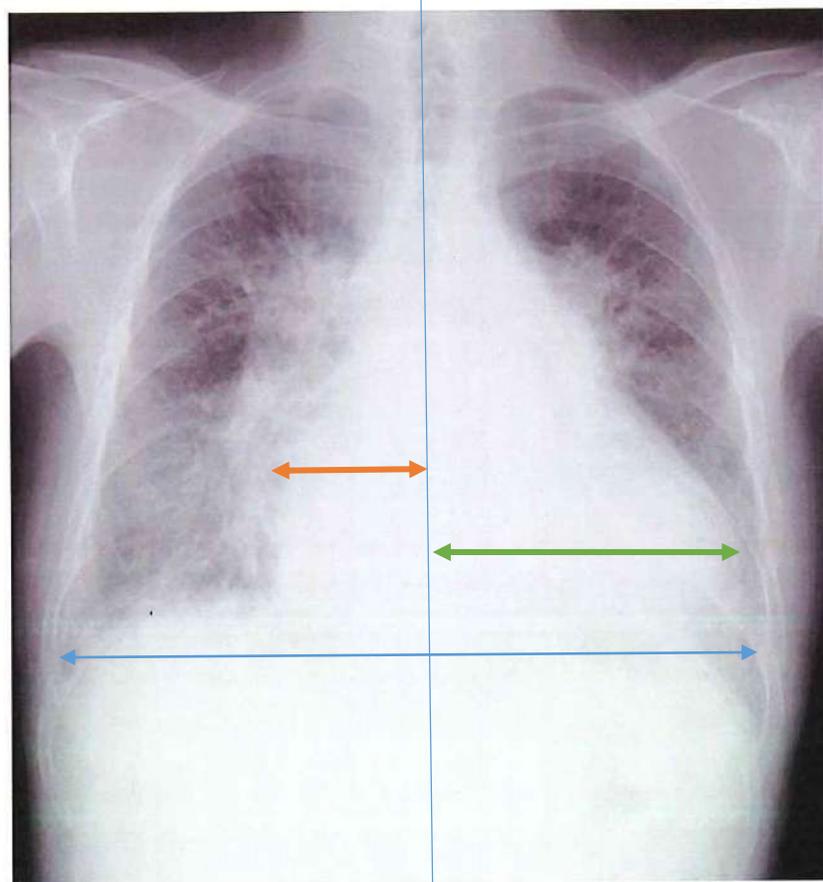
老年看護学実習Ⅰ 実践活動外学習

問題 7

胸部レントゲン

下記のレントゲンの心胸郭比について計算しなさい。





式
 $20+42/95 \times 100 = 65.26$

答え：65.3%

状況設定

脱水症で入院した高齢者

次の文を読み 8～10 の問いに答えよ。

Aさん(78歳、女性)は、夫(80歳)と2人で暮らしている。10年前から、心不全のために利尿薬を毎朝内服している。約半年前に要支援2の認定を受け、週1回、介護予防通所介護を利用している。1週間前から感冒症状があり、38℃の発熱があった。そのころから食事摂取量が減少していた。本日、倦怠感が強くなったため、夫に付き添われて近くの総合病院を受診した。来院時、体温37.4℃、呼吸数20/分、脈拍98/分、血圧100/70mmHgであった。血液検査と尿検査の結果、Aさんは脱水症と診断された。

問題のテーマ

問題 8 脱水症の情報収集項目

Aさんは看護師に「頭がふわふわして、歩くのがつらいです。めまいもするし、体に力が入りません」と話した。

Aさんの脱水症について情報収集すべき内容で最も優先度が高いのはどれか。

1. 昨日の経口摂取状況
2. ADLの状況
3. 睡眠状況
4. 排便回数

問題 8

『看護学 一 目標II 一 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と
 一 B. 脱水症 一 b. アセスメント

問題の意図 ▶ 脱水症の発生要因を理解しているか。

Aさんは心不全で利尿薬を毎朝服用しており、その作用によって、水分の排泄が促進している状態でした。そこに1週前から感冒に罹患したことで発熱して不感蒸泄が増加し、さらに食事や水分の摂取もできなくなったことによって、**脱水症**におちいったと考えられます。

1 ○ 入院に至るまでに、どのくらいの経口摂取ができていたかは重要です。

Aさんは脱水症と診断されています。脱水症は高度になると生命に危険な影響を及ぼします。飲水量がどれくらいあったのかを把握することは、優先度が高いといえます。

2 × ADLの状況は脱水症との関連性が低いため、優先度は高くありません。

3 × 睡眠状況は脱水症との関連性が低いため、優先度は高くありません。

4 × 排便回数は、脱水の状況を把握する情報としての優先度は高くありません。

Aさんは1週前から感冒症状などによって不感蒸泄が増えていたと考えられます。また食事摂取量が減少していたことを考えると、おそらく排便はしばらくなかったと考えられます。なお、脱水症の場合には循環血液量の減少によって尿量が減少するため、排尿量を把握することは重要です。

正解 1

教科書に戻ろう

脱水の定義や発生機序、アセスメントの仕方などを確認しましょう。

添付 老年看護学p.238-241
 (なければp.125-129)

過去問に挑戦!

高齢者が脱水になりやすい原因はどれか。

1. 心拍出量の減少
2. 尿濃縮機能の低下
3. 渴中枢の感受性上昇
4. 蛋白質摂取量の減少

正解 2

[第96回 午前 問題105]

まとめ

高齢者が脱水を起こす要因

高齢者は体内水分量が少ないため、成人よりも脱水に陥りやすいです。「高齢者が元気をなくしたら脱水を疑え」と言われるほどです。体内水分量の減少以外にも、高齢者には脱水のリスクを高める要因が数多くあります。

● 高齢者が脱水を起こしやすい理由

- ・ 体内水分量（細胞内液量）の減少
- ・ 腎臓での水分の再吸収力（尿濃縮機能）の低下
- ・ 抗利尿ホルモン（ADH、バソプレシン）に対する尿細管の反応性の低下
- ・ 渴中枢（視床下部にある）の機能低下
- ・ 利尿薬を服用する人が多いこと

脱水症で入院した高齢者

次の文を読み 8~10 の問いに答えよ。

Aさん(78歳、女性)は、夫(80歳)と2人で暮らしている。10年前から、心不全のために利尿薬を毎朝内服している。約半年前に要支援2の認定を受け、週1回、介護予防通所介護を利用している。1週前から感冒症状があり、38℃の発熱があった。そのころから食事摂取量が減少していた。本日、倦怠感が強くなったため、夫に付き添われて近くの総合病院を受診した。来院時、体温37.4℃、呼吸数20/分、脈拍98/分、血圧100/70mmHgであった。血液検査と尿検査の結果、Aさんは脱水症と診断された。

問題9 脱水症の看護

Aさんは外来で点滴静脈内注射を受け、そのまま入院することになった。病棟では、さらに追加で点滴の指示が出された。Aさんの皮膚は乾燥し、粉をふいている状態である。

Aさんの看護で適切なのはどれか。

1. 口唇にワセリンなどを塗布する。
2. 経口による水分摂取を禁止する。
3. 排尿の際はトイレまで歩行するように伝える。
4. 脱水症の改善のために輸液を急速に滴下する。

問題 9

問題基準 老年看護学 — 目標II — 7. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護 — B. 脱水症 — c. 予防と援助

出題の意図 脱水に対する看護を理解しているか。

脱水があると、一般的に皮膚・粘膜は乾燥し、ツルゴール（皮膚の弾力性）が低下します。脱水によって循環血液量が減少し、組織への水分、栄養の供給が低下することも加わるために、皮膚や粘膜が傷つきやすくなります。そのため口腔、気道、尿路などから、感染を引き起こしやすい状態になります。

身体機能が低下している高齢者で脱水が進むと、経口からの食事や水分の摂取が困難となるため、多くの場合輸液療法を行って脱水の軽減を図ります。また、皮膚が乾燥することで掻痒感が強まり、掻破による皮膚の損傷が起こりやすくなります。また、口腔内は唾液の粘稠性が高まって不潔になりやすくなります。そのため、皮膚や粘膜の保護を行い、清潔に保つことも重要です。

脱水が高度になると、全身倦怠感が増強して臥床時間が長くなり、皮膚が損傷して褥瘡が発生しやすくなることにも、注意が必要です。

1 ○ 口唇にワセリンなどを塗布します。

入院時 A さんには皮膚の乾燥がみられていることから、口唇も乾燥していると考えられます。乾燥していると傷つきやすくなるため、ワセリンやリップクリームなどを塗布して乾燥を防ぎます。

2 × 経口による水分摂取を禁止する必要はありません。

意識があり、嚥下機能と消化吸収機能に問題がなければ、経口摂取はもっとも自然で副作用がない水分補給方法です。しかし、A さんには心不全があるため、輸液による補液と経口摂取による飲水が過剰になると、心負荷が生じる可能性があります。飲水量については医師に相談する必要があります。

3 × 排尿の際は看護師に伝えるように説明しておきます。

脱水時には頭痛や全身倦怠感、血圧低下、立ちくらみなどが出現することが多く、1人で歩行するには転倒のリスクが高い状態です。実際、A さんは「頭がふわふわして、歩くのがつらい」と訴えています。また、点滴台を押しながらの移動は、転倒のリスクが高くなります。排尿時には必ず看護師がベッドからの立ち上がりや歩行の状況を確認し、介助を行います。

教科書に戻ろう

脱水発生時の看護を確認しましょう。

系看 老年看護学p.241（なければp.128-129）

4 × 急速に輸液を行うと、循環血液量の増加によって心臓、腎臓の負荷が増すため、行いません。

輸液量と速度に細心の注意を払い、水分出納、臨床的徴候、検査データなどの推移を観察します。また輸液を急速に投与すると、細胞外液を増加させて浮腫の原因になります。過剰輸液は、肺うっ血を起こします。また A さんは既往に心不全があるため、細心の注意が必要です。なお、輸液によって食欲が回復したら、経口による水分摂取に切り替えます。

脱水症で入院した高齢者

次の文を読み 8~10 の問いに答えよ。

Aさん（78歳、女性）は、夫（80歳）と2人で暮らしている。10年前から、心不全のために利尿薬を毎朝内服している。約半年前に要支援2の認定を受け、週1回、介護予防通所介護を利用している。1週間前から感冒症状があり、38℃の発熱があった。そのころから食事摂取量が減少していた。本日、倦怠感が強くなったため、夫に付き添われて近くの総合病院を受診した。来院時、体温37.4℃、呼吸数20/分、脈拍98/分、血圧100/70mmHgであった。血液検査と尿検査の結果、Aさんは脱水症と診断された。

問題10 服薬管理の支援

入院後4日。Aさんの症状は改善し、経口摂取状況も良好で、明日退院予定である。入院中、Aさんは自室が分からなくなって他の患者に尋ねる様子がみられた。看護師が訪室すると、ゴミ箱に朝内服するはずの利尿薬が捨ててあった。看護師がAさんに薬について尋ねたところ、Aさんは「朝の薬は飲みましたよ」と答えた。

Aさんが在宅療養を継続するために、看護師が介護支援専門員に伝える内容として優先度が高いのはどれか。

1. ADLの状況
2. 水分摂取量
3. 服薬管理状況
4. 夫による介護の状況

問題10

出題基準 老年看護学 — 目標Ⅲ — 9. 多様な生活の場で展開する高齢者への看護 — D. 生活の場の移動と看護の継続 — b. 退院支援、退所支援

出題の意図 在宅療養への移行の支援で重要度が高い事項を理解しているか。

- 1 × Aさんの入院は5日と短期間で、ADLが低下した様子もないことから、情報伝達の優先度は高くありません。
Aさんは脱水症の改善がみられ、明日退院予定となっていることから、今回の入院でADLが低下したとは考えにくいです。
- 2 × 脱水症は改善しているため、水分摂取量の情報伝達の優先度は高くありません。
- 3 ○ Aさんには利尿薬をゴミ箱に捨てていることの自覚がないため、優先度が高いです。
Aさんは利尿薬をゴミ箱に捨てていることに対する自覚がないことから、退院後も服薬管理の支援を行う必要があります。Aさんには認知症の既往はありませんが、入院中の行動などから認知症の可能性が考えられます。Aさんが在宅療養を継続するために、このような情報や服薬管理の支援の必要性について介護支援専門員に情報を伝えます。
- 4 × 夫の介護状況の情報伝達の優先度は、高くありません。

正解 3

教科書に戻ろう

在宅療養者の服薬管理や残薬の確認などについて確認しましょう。

系看 在宅看護論p.145-148

もう一步アドバンス!

在宅療養者と服薬管理

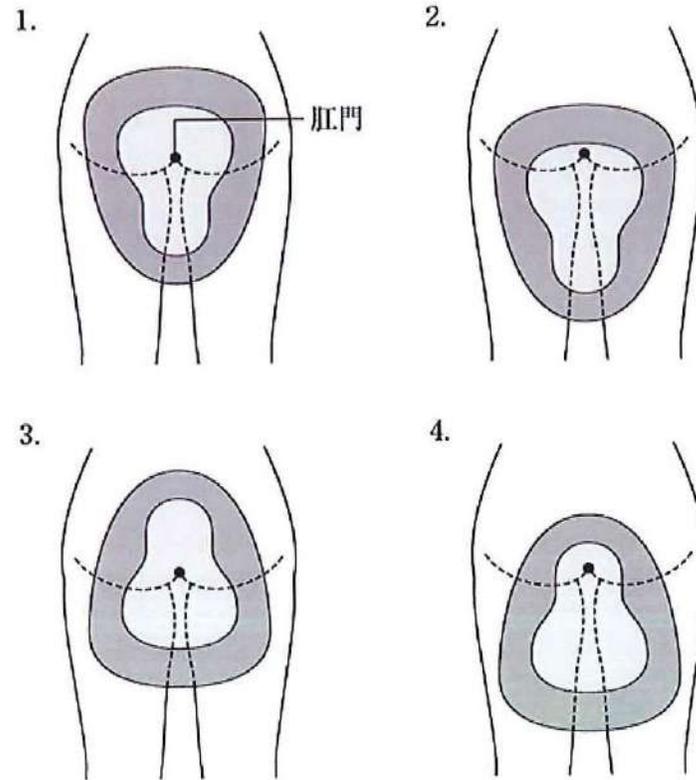
在宅療養中の服薬は、入院中と異なり、生活の場で療養者本人や家族、介護者によって管理される部分が大きくなります。高齢者はもの忘れや認知症などによって薬剤を飲み忘れることがあります。

また、症状が軽減すると自己判断で服薬を中止したり、副作用が怖いからと量を減らして服用したりなどによって、処方通りに薬を服用できていないこともあります。

そのような療養者に対しては、介護支援専門員や訪問看護師、医師などが連携をとって、薬の調整や服薬管理を行う必要があります。

問題11

女性患者の床上排泄で洋式便器をあてる位置を図に示す。
適切なのは何番か。



問題11

解答・解説

便器に腰かけたときの安定性と肛門の位置がポイントです。便器の左右の幅が広いほうを背側とし、便器の中央に肛門が位置するように当てれば、患者の姿勢が安定し、排泄物もこぼれにくくなります。選択肢2では、肛門の位置が便器（便座）の縁に近くなりますが、特に女性患者では排泄した尿が肛門方向へ流れやすいため、不適切なポジションです。難しく考えず、通常の洋式便座に置き換えて考えれば分かりやすくなるでしょう。

よって、1. (○)、2. (×)、3. (×)、4. (×)、となります。

問題12 呼吸困難とはどれか。

1. 脈拍数の増加
2. 息苦しさの自覚
3. 動脈血酸素分圧〈PaO₂〉の低下
4. 経皮的動脈血酸素飽和度〈SpO₂〉の低下

問題12

解答・解説

呼吸困難とは、「息苦しさなどで呼吸がしにくいという患者の主観的な自覚症状」です。一方、呼吸不全は「呼吸機能障害のため動脈血ガスが異常値（吸気時の動脈血ガス分圧が60Torr以下）を示し、そのために正常な機能を営むことができない」という客観的な状態を指します。動脈血酸素分圧（PaO₂）や経皮的動脈血酸素飽和度（SpO₂）の低下がみられるのは低酸素血症をきたした呼吸不全であり、呼吸困難とは明確に区別する必要があります。呼吸不全であっても呼吸困難を自覚しない場合もあり、逆に呼吸困難が必ずしも呼吸不全を伴うわけではありません。

よって、1. (x)、2. (o)、3. (x)、4. (x)、となります。